

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200481		
法人名	有限会社 ケアマエカワ		
事業所名	グループホーム みかんの里		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町南山1938番地1 (電 話) 0955-56-2050		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年10月27日	評価確定日	平成 21年1月6日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレートぶき平屋建 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,700 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.2 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河畔病院 桑原医院 落合歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山の中にある、グループホームみかんの里は四季折々の自然に恵まれた環境にある。ホームの畑で栽培されている野菜や、花々のおすそわけがきっかけで、地域住民との繋がりも深い。地域の行事に参加したり、また、ホームの行事等に地域の方々が参加されたりと、共に支えあう、地域に密着したホームである。事業所の理念「敬愛・献身・思いやり」は、人生の先輩である入居者への対応だけでなく、地域住民へこめられた理念でもある。管理者をはじめ、全職員が理念を十分に理解し理念に基づいたサービスを提供されており、入居者はそれぞれの個性を活かし、ホーム内で生き生きと、そして、伸び伸びと生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果は現場スタッフにも伝え、改善に向けての話し合いがされており、評価結果をもとに、サービスの質の向上に役立てられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部評価を受けるにあたっての自己評価は、管理者が作成している。現場スタッフへの周知は、日々の自然な、ありのままの状態を評価してほしいという管理者の思いから、あえてされていなかった。自己評価項目についても、職員全体で日々の業務の取り組みを見直し、取り組まれることが期待される。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一回開催される運営推進会議では区長や民生委員、また、家族の方々の参加もあり、ホームでの事例報告、改善に向けての話し合いの他、毎回テーマを決めての勉強会も兼ねて行われ、サービスの質の向上に繋がられている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関先には意見箱を設置されており、直接意見を言いづらい方々への配慮がされ、意見を出しやすい環境を整えられている。家族の面会時には、必ず入居者の状況を報告されている。また、面会時以外でも随時、電話等で入居者の状況報告がされており、その際に出た意見等は、ホーム会議で対応を検討し、サービスの質の向上に反映されている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの畑等で、野菜や花々の栽培、収穫したもののおすそ分けがきっかけで、地域との壁がなくなり、ホームの行事の際には地域の方にも来てもらったり、また、地区の清掃会や会合等の集まりには管理者が参加したりと、地域との関わりが蜜に取られている。また、ホームの非常災害時の消火訓練の際には、地域の方々にも参加していただき、共に協力し合う体制を整えられている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念、「敬愛・献身・思いやり」をもとに、入居者一人ひとりに人生の先輩という尊敬の気持ちを持って、個性を活かしていけるよう取り組まれている。また、入居者だけに対してではなく、地域住民との関りあいも含めて、この理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が玄関、リビング等に掲げられ、毎朝の申し送り時や、ミーティングの際に復唱し、職員が皆、理念の実践に向けて取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームみかんの里の畑で、野菜や花々の栽培、収穫したもののおすそ分けがきっかけで、地域との壁がなくなり、事業所の行事の際には地域の方にも来てもらったり、また、地区の清掃会や会合等の集まりには管理者が参加したりと、地域との関わりが密に取られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は現場スタッフにも伝え、改善に向けての話し合いがされていたが、今回の外部評価を受けるにあたっての自己評価は管理者が作成され、現場スタッフへの周知はされていなかった。	○	外部評価の意義を運営者、管理者だけでなく現場のスタッフも含め職員全体が理解し、自己評価項目についても、職員全体で日々の業務の取り組みを見直し、取り組まれることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催される運営推進会議では区長や民生委員、家族の方々の参加もあり、ホームでの事例報告の他、毎回テーマを決め勉強会も兼ねて行われ、サービス向上につながられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員が毎月来訪し、入居者の話を聞いたり、施設への情報提供をしたり、スタッフ共に話し合いサービスの改善に取り組まれている。また、必要に応じて包括センター等に相談し、来てもらうなど、積極的にサービス向上のための働きかけが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の家族宛に送られるホーム便りでは、本人が写っている写真を掲載したものを個別に作成して送るなどの配慮がなされている。また、面会時、利用料の支払いの際には必ず入居者の状況を報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先には意見箱が設置されている。また、入居者の状況報告等を行う際、家族の意見を随時確認している。意見等があった際は、ホームでの会議で対応を検討し、サービス運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の休憩時間の工夫をしたり、希望休に応えるなど、職員の意見に可能な限り対応し、働きやすい環境づくりに努められている。また、職員が代わる際は、入居者への配慮として、慣れたスタッフが間に入り新しいスタッフと入居者の関わりを深めていけるよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営推進会議時に行われる勉強会には、スタッフも参加できる様体制作りがなされているが、ホーム外での研修については、研修費の問題や、少人数での勤務体制であるため、積極的な参加はなされていない。	○	無料参加の研修や地域で開催される研修など、研修案内の情報を収集し、スタッフに情報提供をするなどして、ホームとしての支援体制を構築されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在7事業所での同業者の交流会に参加され、共に情報提供の場として、疑問点や改善点などを話し合い、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には事前の見学や、体験利用ができる体制を整えられている。また、入居の際には、家族も一緒に泊まって、環境が変わったことによる入居者の不穏を軽減するための配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者に対し、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを忘れず、入居者のこれまでの生活の知恵を活用し、畑の作物作りを習ったりしながら、共に支えあう関係作りがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の家族の情報や、日々の生活の中で入居者の生活パターンや個性を把握し、外出が好きな方は月に1回は外出できるよう支援したり、通院帰りに買い物をして帰ったりと、本人の意向に沿えるよう支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月に1回のミーティングの際にスタッフからの情報や、入居者、家族の意見を取り入れ、本人の意向を踏まえた計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとのモニタリングの他、問題が発生した際は、随時会議が行われ、現状に即した介護計画が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望に応じ、外出や、通院も個別で対応されており、ホームの柔軟さを活かした支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医を可能な限り継続されている。また、24時間体制での協力医療体制も整っており、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合の対応や終末期のあり方については、ホームの指針を説明し承諾書を作成され、職員、家族共に、方針の共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーの保護の為に、事前に職員からは、守秘義務に関する同意書をとられている。また、日々の業務でも、プライバシーを損ねないような意識付けが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその時々々の気分や状態に合わせ、起床時間や、食事の開始時間が微調整され、入居者個人個人に合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた作物を、食卓に出されている。また、食事の準備では、豆の鞘むき等入居者のできることを一緒に行いながら準備されている。食事中は誤嚥等の事故がないよう入居者の近くで見守りながら、楽しい食事がなされるような声掛け等、雰囲気作りに配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜から土曜までの午前中と決まってはいるが、入居者の要望や、その時の状況によっては、午後からの入浴にしたり、曜日を変更したりして、対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験者には畑作りをしてもらったり、俳句が好きな入居者、歌が好きな入居者、それぞれの個性を活かして、日々の生活の中で本人が満足できるよう支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者個人個人の希望に沿って、外出をしたり、ホーム周辺を散歩したり、自宅に帰られたりと、個別で支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行っておらず、自由に出入りが可能である。ホームセキュリティーを使い、安全面に配慮しセンサーで把握できるようにされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月に行われた消火訓練では、地域の方々や介護相談員も来て一緒に行い、地域との協力体制も整えて行けるよう努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量の把握と、定期的な水分の摂取量の把握がなされている。メニューは季節の野菜を意識して、野菜中心の栄養バランスが取れた食事を提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高めで、圧迫感をなくし、開放感ある空間作りを意識して設計されており、サンデッキ、芝生、和室のスペースも広く、ゆったりと過ごせる空間作りがなされている。また、季節感を感じられる、花が飾られ、自然の光が取り入れられた、居心地の良い環境づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの使い慣れたものを(たんす、ベッド、仏壇等)持ち込まれ、本人が安心して生活できるよう配慮されている。		